

平成27年度自己評価シート(中間評価)

校番	068	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	濱岡 正	☎・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	-------------	------	------	-------	-----

学校経営目標					
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上					
	生徒にとって「力が付く授業」の実践がなされている。 指標: 生徒の授業アンケートの授業満足度に関する項目の肯定的回答率	授業改善の成果としての達成目標を個々に設定し、それに向けた授業づくりに努め、評価に基づいた振り返りを行う。 また、教科主任会議(活用コアスクール推進会議)を開催し、学びの変革に向けて組織的に各教科指導力の向上に努める。	B	・第1回授業満足度の肯定的回答は目標の90%を達成したが、振り返りの設定の項目は、達成していない。 ・学びの変革への組織的な取組は継続実施中である。	教務部
	教職員が個々の役割を果たし、業務を組織的に遂行し、業務の改善に積極的に取り組み、学校経営への参画意識を高めている。 指標: 業務改善に関する教員アンケートの肯定的回答率	業務改善に係る会議を開催するとともに、業務改善についての教員アンケートを実施する。	B	・「生徒と向き合う時間の確保」と「教職員のモチベーション向上」に向けて取組目標を策定した。教務事務支援員が配置され、業務の効率化に役立っている。	校務運営会議

【評価結果の分析】

- ・第1回授業評価アンケートの結果から、授業に関する満足度は、92.4%と目標値の90%を超えた。ただ、振り返りの時間の確保は88.2%と下回った。その他、めあての説明93.4%、思考したり発表する時間の確保93.4%、学力向上の実感94.1%、学ぶ面白さは92.7%であった。活用コアスクール指定校として、取組方針の確認や講師を招致した活用問題作成に係る研修、活用問題の作成、指導案検討会などを実施するとともに、活用コアスクール推進会議を定期的に開催し、組織的な授業づくりと生徒の主体的な学びに向けた情報の共有に取り組んでいる。各教科による振り返りの時間の更なる充実が必要である。
- ・5月に実施した第1回業務改善モデル校アンケート集計では、「生徒と向き合う時間」が確保できている割合が43.1%と全日制課程の平均値よりも7%低く、またトータルモチベーションは高いが学校経営目標達成への参画意識が74.6%と全日制平均よりも1.6%低かった。分掌業務や会議などの間接的業務の時間を効率化し、生徒と向き合う時間の確保と教職員のモチベーションアップに向けた取組項目を策定した。業務改善モデル校として、教務事務支援員が職員室に配置され、業務の効率化に役立っている。

【今後の改善方策】

- ・「生徒の主体的な学習活動を通じた思考力・判断力・表現力の育成」をテーマとして、10月に指導・助言者を招致した公開研究授業を実施予定である。この研究授業を通して、各教科の取組の課題を明確にするとともに、より組織的な学力向上の態勢を拡げていきたいと考える。本校の重点目標である①生徒の主体的な学習活動の充実②振り返りの時間の充実に関して、活用コアスクール推進会議を基点として、学校全体に拡げる取組を更にいっそう推進していく。
- ・業務改善に向けて、「起案プロセスの効率化、教材の共有化、会議の改善、校務分掌の再編、学校運営への参画意識の向上」の取組を進める。教務事務支援員の活用をより効率的なものにするため、再度活用の在り方について全体への周知を図る。

2 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実					
	自己の生き方、在り方を考え、進路目標を設定し、その第一希望の進路実現に向け努力する生徒を育成する指導がなされている。(3年生) 指標: 国公立大学現役合格者数、大学入試センター試験結果(900点換算)が全国平均点以上の人数	各学年の進路判定会議(進路検討会議)等を定期的に開催し、学級担任や教科担任による生徒への指導を充実させるとともに、受験に向けた意識を高めるための、組織的・計画的な指導を展開する。 生徒の学力分析を進め、各教科等における適切な目標設定や、指導の充実を図る。	B	・3年は、7月に模試結果をもとに進路判定会議を実施し、三者懇談を行った。学年集会や進路指導LHRでは、進路指導部で内容を検討し、指導案や実施要項を作成し、組織的・計画的な指導を行っている。	進路指導部
	家庭学習の習慣を定着させ、第一希望の進路が実現できる学力を身に付けた生徒を育成する指導がなされている。	学級担任による生徒への個人面談等の指導を継続するとともに、進路講演会等を通して生徒の学習への意識の向上を図る。	B	・教科会及び学年会で学力分析を行い、生徒の進路実現に向けて具体的な対策を検討した。それをもとに、授業や補習での指導の工夫改善に努めている。	進路指導部 教務部
			B	・1・2年の分析会議を実施し、個人面談を複数回実施した。 ・進路講演会を1・2学年で計画的に実施した。	進路指導部

(1・2年生) 指標: 1年1月模試(120名), 2年1月模試(70名)における国数英総合偏差値54以上の人数	各教科等における適切な目標設定や、指導の充実に向け、生徒の学力分析を進める。	C	・7月模試で偏差値54以上は、1年60名、2年72名であった。 ・模試結果や進路志望などから生徒の学力分析を行ない、教科会や学年会で組織的に生徒への指導に努めている	進路指導部 教務部
本校の教育活動を、中学生及び保護者等に対して、定期的・効果的に情報発信している。 指標: 指標: オープンキャンパスの参加者数, HPの更新回数	オープンキャンパスを年2回実施するとともに、体験授業(7月)の内容の充実や生徒による進行などの改善を図る。また、中学校における説明会確保のため、中学校に積極的に働きかける。	B	・第1回目は876名の生徒・保護者が参加し、全てのプログラムで90%以上の肯定的評価を得た。	総務部
	昨年度はHPをリニューアルし、今後は最新の教育活動を発信するため、できる限りリアルタイムでのHP更新に努める。	C	中学生や地域・保護者への案内をトップページで行ったが、分掌・学年・部活動の更新回数は少なかった。更新回数58回。	総務部
	理数コースの活動内容を紹介するパンフレットを作成し中学生に配付する等、理数コースの認知度アップに向けた取組を行う。	B	認知度アップに向けて、オープンキャンパス、学校説明会等を利用して配布を行った。	理数コース
高大連携の推進を中心として、理数コースの教育内容が深化している。 指標: 生徒アンケートの肯定的回答率	SSH校との連携を図るとともに、サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)について、1年生では生物分野、2年生では物理分野を実施する。また、広島市立大学との情報分野における連携授業を充実させる。このような取組を通して生徒のプレゼンテーション能力の更なる向上を図る。	B	科学技術振興財団からの新規プログラム決定時期が8月であったため、予定していた内容が後半にずれ込んでいる。情報分野においては予定通り進んでいる。	理数コース

【評価結果の分析】

- ・1年については8月末に進路希望や文理選択、模試結果をベースに検討会議を行った。その内容に基づいて、9月に個人面談を行い、学力向上に向けて指導を行っている。2年も同様に検討会議を行い、3教科の成績バランスの良くない生徒を対象に面談を行い、学習方法や進路意識の喚起に向けた組織的な指導を展開している。3年については、データに基づいて、志望校の検討、志望校合格に向けた取組や苦手科目の克服に向けた指導、最後まで諦めさせない指導について検討会を行い、個別指導に当たった。
- ・希望者を対象に、全学年の放課後補習、1・2学年対象の土曜講座を計画的に実施している。
- ・今年度、第1回オープンキャンパスを生徒中心に進行し、歓迎パフォーマンス・学校紹介ビデオを開会行事に組み入れた。また、体験授業も2教科から5教科に増やし、好評であった。11月に第2回オープンキャンパスを実施予定である。
- ・本校HP(トップページ)の更新は頻繁に行ったが、分掌・学年・部活動のページの更新が滞り気味である。
- ・理数コースのパンフレット、ポスターを作成・印刷し、オープンキャンパスや学校説明会などを利用して配布した。参加した生徒や保護者には宣伝できている。
- ・高大連携を行うための予算として新しいプロジェクトに申し込んでいたが、決定時期が8月にずれ込んだため、本年度予定内容の実施が日程的に厳しくなっている。

【今後の改善方策】

- ・年度末の目標に向けて、模試の成績等を分析し、成績中間層や教科バランスの悪い生徒への面談(教科担当面談)を丁寧に行うなど教科・学年を超えて、組織的に進めていく。
- ・第2回オープンキャンパスも、教員主導でなく本校の生徒が中心となって進行できるように計画中である。在校生の受験体験談を組み込む予定である。
- ・本校HPの分掌・学年・部活動の更新回数を増やすため、各部署との連携を密にし、更新の依頼を定期的に行う。
- ・高大連携については、本年度の予定内容を今後も継続して実施してい予定である。

3 生徒の自立と自律の組織的な支援				
家庭学習を習慣化させる取組がなされている。 指標: 宅習時間調査での目標達成率(1年130分/日)60% 2年130分/日)70% (3年260分/日)40%	学級担任による生徒への個人面談による指導を強化するとともに、進路講演会等を通して生徒の進路・学習への意識の向上を図る。	C	・宅習時間調査を実施し、面談による指導を行ってきた。 9月の目標達成率は、1年37%、2年44%、3年55%であった。 ・部活顧問会議を開催し、顧問による組織的な指導を行っている。 ・1・2年の進路講演会を計画的に実施した。	進路指導部

<p>規範意識の高い生徒を育成する指導がなされている。 指標：1日平均の遅刻者数</p>	<p>校門指導の継続や遅刻回数に応じた段階的指導を徹底する。また、遅刻指導について、生徒指導部・担任間連携の利便性を維持する。</p>	B	<p>・1日平均遅刻者数は、一昨年度前半の3.5、昨年度前半の3.2に対し、4.3であった。通院遅刻の増大が響いている。 ・生徒会の交通マナーアップ運動を継続している。</p>	生徒指導部
<p>生徒の自己存在感を高める取組がなされている。 指標：主体的に行事や委員会、部活動、ボランティア活動に参加したと考える生徒の割合</p>	<p>掲示板等を活用し、部活動の活動内容や試合結果等をリアルタイムで披露する。また、「福島ひまわり里親プロジェクト」等のボランティア活動について、地元の小学校・中学校・大学と連携し、取組の充実を図る。 部活顧問会議を定期的に開催し、文武両道に向けた指導の充実を図る。</p>	B	<p>・部活動大会実績広報用ホワイトボード活用している。福島ひまわり里親プロジェクトは去年に引き続き実施している。ルワンダレインボープロジェクトでは教育長を表敬訪問した。 ・年度末にアンケート調査を実施予定である。</p>	生徒指導部
<p>教育相談体制が整い、生徒の支援に役立っている。 生徒・保護者アンケートの肯定的回答率</p>	<p>教育相談、サポート委員会を活用し、支援を必要とする生徒の支援方法を検討し、全教職員で取り組むような校内支援体制を確立する。また、発達障害の可能性のある生徒への対応を進める。</p>	B	<p>・教育相談、サポート委員会を活用し、教職員間の情報の共有化と意識統一を図り、生徒支援に努めている。</p>	保健部
<p>校内美化活動が組織的に行われている。 指標：生徒・保護者アンケートの肯定的回答率</p>	<p>小中高合同環境美化活動を通して、地域との協力体制を築く。また、美化委員や部活動生徒をはじめとして、生徒の環境美化に対する自主的な活動を促し、全体的な取組へとつなげる。</p>	B	<p>・美化強化月間を学期毎に設定し、美化委員会を中心に環境美化意識の向上に努めている。 ・小中高合同環境美化活動は現在準備中である。</p>	保健部

【評価結果の分析】

- ・年5回(4・6・9・11・1月)の宅習時間定点調査を実施予定である。4月から9月までの目標達成率の推移は、1年50%→37%→37%、2年44%→42%→44%、3年0%→7%→55%と推移している。9月時点で、1・2年は目標を達成できていない。進路意識及び学習意欲を喚起する指導が必要である。3年については、この勢いで進路実現に向けて頑張らせた。
- ・部活顧問会議において、部活ごとの模試結果と学習時間推移を提示し、顧問による生徒の指導を組織的に行っている。
- ・規範意識に課題のある生徒もいるので、引き続き社会に通用し活躍できる人材育成をめざして指導を継続する。マナー向上については、生徒会の主導による交通マナーアップ運動を継続している。
- ・ひまわり里親プロジェクトによる小中高連携、ルワンダレインボープロジェクトを継続し、加えて大学連携も実施している。
- ・「文武両道」のもとで、多くの大会実績(表彰状)があるなど、各部活動は充実している。
- ・生徒・保護者アンケートを7月に実施した。環境美化活動、教育相談体制の項目については、ともに92%の肯定的回答を得た。「環境美化活動に努めているとは思えない」とする否定的回答が前年度より8%減少し4.3%となった。今後も美化意識を高める取組を継続的に実施していきたい。
- ・「体罰・セクハラ相談窓口」の周知に関して、「知らない」とする否定的回答が前年度より10%減少し20%となった。引き続き、周知に努めていきたい。

【今後の改善方策】

- ・進路意識の喚起や学習方法などに関する指導を、より組織的なものにとともに、更に充実させていく必要がある。進路指導部及び教務部を中心として、学力向上に向けた取組、とりわけ活用コアスクールの施策と絡めた授業作りのための環境整備を更に進め、各教科が組織的・計画的に教科会議で内容を検討し、実践していく。
- ・年5回の宅週時間調査結果に基づいて、週10時間未満の生徒に対して面談(正副担任・教科担任・学年主任等との)を行い、学習習慣や学習方法、生活習慣の改善に向けた指導を行っていく。進路意識の喚起や学習方法に関する指導などを、より組織的なものにし、更に充実させていく必要がある。
- ・現在の取組を継続し、規範意識やマナーの向上において生徒の自主性を更に育てていく。
- ・生徒会主導による交通マナーアップ運動を継続していく。生徒自身の能動的な働きかけによる生徒の自主性を育てる取組を推進する。
- ・学校への帰属意識や自尊心の醸成に繋げていく取組を進めるためにも、生徒の意識調査アンケートを本年度も行う。
- ・11月に祇園地区の小中高合同環境美化活動を実施予定である。継続的な活動として地域との協力体制を確立させるとともに、生徒の自主性を育てる貴重な機会と捉え、学校全体の取組につなげていく。
- ・「体罰・セクハラ相談窓口」やカウンセラーによる教育相談日の設置について、紙面およびHPなど、あらゆる機会を通じて情報を発信し周知を図り、生徒・保護者支援につなげていく。

平成27年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	068	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	濱岡 正	☎・定・通	☎・分
----	-----	-----	-------------	------	------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上

- ・第1回授業評価アンケートの結果による授業満足度は92.4%と目標値の90%を超えた。その他、めあての説明93.4%、振り返りの時間の確保88.2%、思考したり発表する時間の確保93.4%、学力向上の実感94.1%、学ぶ面白さ92.7%と、振り返りの時間の充実が課題である。
- ・活用コアスクール指定校として、講師を招致した活用問題作成に係る研修、活用問題の作成、指導案検討会などを実施、活用コアスクール推進会議を中心に組織的な授業づくりと生徒の主体的な学びに向けた情報の共有に取り組んでいる。
- ・業務改善モデル校として、「生徒と向き合う時間の確保」と「教職員のモチベーションアップ」に向けた取組項目を策定し、取組を進めている。また、教務事務支援員が職員室に配置され、業務の効率化に活用している。

(2) 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ・1学年は、進路希望や文理選択、模試結果に基づく進路検討会議、個人面談を実施した。2学年も進路検討会議を行い、3教科の成績バランスが良くない生徒を対象に面談を通して学習方法や進路意識の喚起に向けた指導を行った。3学年は、データに基づき志望校の検討、志望校合格に向けた取組や苦手科目の克服に向けた指導などについて検討会を行い、個別指導を実施した。希望者を対象に、全学年の放課後補習、1・2学年対象の土曜講座を計画的に実施中である。
- ・今年度、オープンキャンパスを歓迎パフォーマンスや司会・進行を生徒が中心となって行うスタイルへと大きく改善を図った。生徒の活躍の場を設けるとともに、中学生にとっても効果的であると思われる。体験授業も2教科から5教科に増やし、好評であった。本校HP(トップページ)の更新は頻繁に行ったが、分掌・学年・部活動のページの更新が滞り気味である。
- ・理数コースの紹介パンフレット、ポスターを作成し、オープンキャンパスや学校説明会などを利用して配布・宣伝することができた。高大連携を行うための新たなプロジェクト予算の決定が8月にずれ込み、予定内容の実施が日期的に厳しい状況にある。

(3) 生徒の自立と自律の組織的な支援

- ・9月時点での宅週時間は、1・2学年で目標を達成できていない状況がある。部活顧問会議を開催し、模試結果と学習時間推移に基づいて顧問による生徒への指導を組織的に行っている。
- ・社会に通用し活躍できる人材育成をめざして規範意識やマナー向上に向けた指導を継続する。生徒会の主導の交通マナーアップ運動、ひまわり里親プロジェクト、ルワンダレインボープロジェクトも継続し、加えて大学連携も実施している。
- ・環境美化活動、教育相談体制に係る生徒・保護者アンケート結果は、いずれも92%の肯定的回答を得た。「環境美化活動に努めているとは思えない」とする否定的回答が前年度より8%減少した。「体罰・セクハラ相談窓口」を「知らない」とする否定的回答が前年度より10%減少した。

2 今後の改善方策

(1) 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上

- ・学びの変革に向けた公開研究授業を実施し、各教科の取組の課題を明確にするとともに、より組織的な学力向上の態勢づくりにつなげる。
- ・「起案プロセスの効率化、教材の共有化、会議の改善、校務分掌の再編、学校運営への参画意識の向上」を業務改善の取組として推進するとともに、教務事務支援員をより効率的に活用するために全体への周知を図る。

(2) 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ・模試結果を分析し、成績中間層や教科バランスの悪い生徒への教科担当者による指導など、教科・学年を超えて組織的な指導を行う。
- ・第2回オープンキャンパスも生徒が中心となり、質疑応答や受験体験談を含めた説明や進行が可能となるように計画中である。
- ・本校HPの充実に向けて、総務部が中心となり関係部署と連携を密に行い、タイムリーな更新を推進する。
- ・理数コースの高大連携は、本年度予定していた内容を継続して実施する予定である。

(3) 生徒の自立と自律の組織的な支援

- ・進路指導部及び教務部が中心となり、学力向上に向けた取組、特に活用コアスクールの施策と絡めた授業づくりの環境整備を更に進め、各教科が組織的・計画的に教科会で内容を検討し、実践していく。
- ・宅週時間が週10時間未満の生徒に対して面談を充実させ、学習習慣や学習方法、生活習慣の改善に向けた指導を行う。
- ・規範意識やマナーアップを進めるうえで、生徒自身の能動的な働きかけによる取組を推進する。学校への帰属意識や自尊心の醸成に繋げる取組を進めるため、今後生徒の意識調査アンケート調査を実施する。
- ・地域との小中高合同環境美化活動を実施予定であり、生徒の自主性を育てる貴重な機会と捉え、全体の取組につなげる。
- ・「体罰・セクハラ相談窓口」や教育相談日について、紙面およびHPなど、あらゆる機会 で情報を発信し生徒・保護者支援につなげる。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

学校の経営ビジョンが明らかにされ、教職員の日々の具体的な活動に意味を当てることができていると思われるという言葉をいただいた。進学校として、生徒の学力向上と進路の更なる充実(国公立大学合格100名超え)をめざし、教職員が一枚岩となり、更なる組織的・計画的な取組を推進していきたい。

平成27年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 27 年 10 月 30 日

校番	068	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	濱岡 正	◎・定・通	◎・分
----	-----	-----	-------------	------	------	-------	-----

評価項目	評価	理 由 ・ 意 見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学校として、社会の関心事である学力向上、国公立大学合格100人越えをめざし、組織的に取組が進められており、これからも頑張ってもらいたい。 ・さらに目標を具体化するために進捗度や達成度を何で評価するのかといったことを明確にするために数値化を図ったり、スケジュール目標などにすると有効で評価しやすくなると考えられる。 ・理数コースを特徴としているが、もっとエッジをたてて学校の特徴を前面にPRしていくと良い。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価アンケートの目標値を超えていることは、積み重ねの成果であると思われる。 ・「学びの変革」に向けた具体的な計画を、きめ細やかに進捗管理の中で進めていただきたい。 ・ホームページの充実は急務であると思われる。進路指導やオープンキャンパスなど、地域へのアピールをどんどん進めていただきたい。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向き合う時間の確保、教職員のモチベーションの向上の目標は評価できる。革新的に取り組んでいただきたい。 ・家庭学習を定着させるために、担任による個別面談等と併せて、その他の取組も充実させることによって、よりいっそう効果的になるとと思われる。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、生徒自身が何を学ぶのかを理解し、結果として授業で何を学んだかを実感できる学習活動が大切です。生徒がより自信を持ち、更に覇気ができるよう指導を進めていただきたい。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学校ですから勉強が必要ですが、規範意識やマナーは社会人になっても人間として必要です。しっかり指導をお願いしたい。先生方もお忙しいと思いますが、生徒と向き合う時間を確保し取組を進めていただきたい。 ・学校の取組だけでは限界があると思われる。PTA にも要望を伝えていただき、家庭との連携を強化すること更に教育効果を高め、達成のスピードアップも可能になるとと思われる。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学校として、一般的関心事である生徒の進路の更なる充実に向けて学校をあげて組織的に頑張っていたいただきたい。 ・学校の経営ビジョンが明らかにされることで、教職員の日々の具体的な活動に意味を当てることができていると思われる。 ・標・計画・評価と非常にきめ細かに整理されています。よく努力されていると思います。前へと進み、学校を育ててください。